

《そ の 他》

コロナ禍における基礎看護技術教育に関する文献検討 —日常生活援助技術に焦点を当てて—

阿 部 智 美¹⁾, 幸 山 靖 子¹⁾, 村 上 翔太郎¹⁾

要旨：本研究の目的は、文献検討からコロナ禍における基礎看護技術教育の取り組みを明らかにすることで、感染症流行期のみならず、今後の看護技術教育についての示唆を得ることとした。医中誌Webを用いて、会議録を除き「COVID-19」「看護技術」をキーワードとして文献検索を行った。対象文献を8件とし、2020年度に行われた基礎看護技術教育の日常生活援助技術に焦点を当てた。文献検討の結果、遠隔授業や感染予防対策を講じた学内演習の取り組みが明らかとなった。今後は、看護師養成機関や実習施設等と情報共有をしながら、効果的な看護技術教育を検討していく必要性が示唆された。

キーワード：コロナ禍, 基礎看護技術, 教育, 文献検討

I. はじめに

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、教育機関では休校措置がとられ、文部科学省からは授業計画の変更、遠隔授業等の対応についての通知が出された¹⁾。看護師養成機関においても同様な対応がとられた。特に臨地実習は実習施設での実施が困難な状況となり、学内実習等での代替実習が行われた。看護基礎教育では、臨地実習以外にも看護技術教育のために対面形式での演習が多く行われている。厚生労働省からは演習の際には、集団感染防止に係る3つの条件、いわゆる「3つの密」(密閉空間, 密集場所, 密接場面)を避ける等に留意することが示された²⁾。それぞれの看護師養成機関では、地域の感染状況を踏まえ、感染予防対策を取りながらの看護技術教育が行われた。

看護基礎教育において看護技術教育は、主に1, 2年次で基礎看護技術を学修し、成人看護学や母性看護学等の各領域で、それぞれの領域の特徴を踏まえた看護技術を学んでいく。また、基礎看護技術には食事や

排泄, 活動, 清潔等の日常生活援助技術以外に, 検査や与薬等の診断・治療に伴う援助技術といった様々な技術内容がある。特に, 日常生活援助技術は看護を学び始めた初学者が学修する看護技術である。通常では講義を受けた後に, 対面形式の演習で, 学生同士が対象者と看護者の役割を交代しながら看護技術を学ぶことが多い。

2020年度のコロナ禍で行われた看護基礎教育に関する文献から, 看護技術教育の取り組みについて明らかにすることは, 感染症流行期のみならず, 今後の看護技術教育のあり方を検討する際に有用であると考えられる。これまでコロナ禍での臨地実習の代替実習に関する文献検討は報告されているが³⁾, 基礎看護技術教育に関する文献検討は見当たらない。そこで, 本研究の目的は, 文献検討からコロナ禍における基礎看護技術教育について日常生活援助技術に焦点を当て, その取り組みについて明らかにすることとした。

1) 弘前学院大学看護学部

連絡先：阿部智美 〒036-8231 青森県弘前市稔町20-7

TEL：0172-31-7100, FAX：0172-31-7101, E-mail：tomomi@hirogku-u.ac.jp

受理：2024年2月24日

表1 文献リスト

No.	著者	タイトル	掲載誌
1	菅原啓太, 灘波浩子, 川島珠実, 他	新型コロナウイルス感染症の影響下における基礎看護学領域の取り組み 基礎看護方法Ⅱ(日常生活援助技術)におけるTeamsを活用した総合演習グループワーク	三重県立看護大学紀要, 特別号, 59-64, 2020
2	安藤かよ子, 太田英子, 戸田澄子, 他	【COVID-19対策を見据えたこれからの院内教育・授業の進め方【教材・実習編】】新型コロナウイルス感染症対策! 手作りのオリジナルDVDを活用した授業対策 基礎看護技術の校内実習の取り組み方	看護人材育成, 17(6), 71-77, 2021
3	緒方優, 佐居由美, 縄秀志, 他	コロナ禍における在宅学習としての日常生活援助の実技練習の取り組み	聖路加国際大学紀要, 7, 103-108, 2021
4	廣瀬允美, 石塚淳子, 小元まき子, 他	実技を伴う授業(生活援助技術)におけるオンラインによるリアルタイム授業の試み	順天堂保健看護研究, 9, 52-57, 2021
5	近藤奈緒子, 布施寿子, 原恭子, 他	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う基礎看護学の授業方法の変更に係る目標到達状況	神奈川県立よこはま看護専門学校紀要, 13, 88-96, 2021
6	大田容子, 原田朋代, 田村真由美, 他	基礎看護学領域における新型コロナウイルス感染症対策下の授業運営 2020年度前期の主な演習・実習科目について	姫路獨協大学看護学部紀要, 5, 45-49, 2021
7	押領司民	【看護技術の効果的な習得をめざして】看護技術教育に関する共立高等看護学院の取り組み 2020年度(コロナ禍)における学内実習と学内演習を中心に	看護教育, 62(7), 594-601, 2021
8	佐藤由記子, 竹田理恵, 佐藤清湖, 他	遠隔授業を取り入れた生活援助技術の授業を受講した2020年度履修学生の理解状況	研究紀要青葉, 14(1), 131-137, 2022

Ⅱ. 研究方法

1. 研究方法

1) 文献検索方法

医中誌Webを用いて, 会議録を除き「COVID-19」「看護技術」をキーワードとして文献検索を行った。その結果, 201件が検出された(検索日2023年9月)。そのうち, 2020年度に行われた基礎看護技術教育の日常生活援助技術に関する文献5件を対象文献とした。さらに, インターネットでの検索や対象文献の文献リスト等から抽出された3件を追加し, 計8件を対象文献とした。対象文献で日常生活援助技術以外の基礎看護技術について報告されている場合は, 該当する内容を抽出した。

2) 分析方法

対象文献の概要として科目名, 技術内容等, 授業方法/時期, 養成機関, 学年を抽出した。さらに, 対象文献から遠隔授業と学内演習での取り組みに書かれている内容を抽出し, 類似した内容ごとにまとめ, 分類した。

2. 用語の定義

日常生活援助技術: 食事や睡眠, 排泄, 活動, 清潔といった日常生活の援助技術とし, 今回はベッドメイキ

ングといった環境を整える技術も含めた。

遠隔授業: テレビ会議システム等を使用した同時双方向型やオンライン教材等を使用したオンデマンド型で行う授業とした。

学内演習: 学内において対面形式で行う演習とした。

Ⅲ. 結 果

対象文献とした文献リストを表1, 対象文献の概要を表2に示した。また, 遠隔授業・学内演習の取り組みを表3に示した。

1. 対象文献の概要(表2)

対象文献で, 科目名, 技術内容等では, 日常生活援助技術に関する科目の全体の内容について取り上げている文献は6件(No3, 4, 5, 6, 7, 8), 一部分の内容を取り上げた文献は2件(No1, 2)であった。授業方法では, 遠隔授業は2件(No1, 3), 遠隔授業(オンライン教材含む)と学内演習は6件(No2, 4, 5, 6, 7, 8)であった。授業時期では, 4月から9月を前期に相当, 10月から3月を後期に相当と捉えると, 2020年度の前期に相当は5件(No2, 3, 4, 6, 8), 後期に相当は1件(No1), その他2件(No5, 7)であった。養成機関では, 専門学校3年課程は3件(No2, 5, 7), 短期大

表2 対象文献の概要

No.	科目名	技術内容等	授業方法/時期	養成機関	学年
1	基礎看護方法Ⅱ 日常生活援助技術	総合演習グループワーク	オンライン授業/1月	看護大学	1年
2	基礎看護学方法論Ⅰ 安全で快適な生活環境 のあり方	ベッドメイキング	オンライン授業/5月から 校内実習/8月	専門学校 3年課程	1年
3	基礎看護技術論Ⅰ 日常生活援助技術	車椅子移動・体位変換、陰部洗浄、全身清拭、ベ ッドメイキング、食事介助、口腔ケア、便器・尿器 のあて方、体位保持	遠隔授業・自宅のできる 実技練習/前期	看護大学	2年
4	生活援助技術	感染予防 ボディメカニクス ベッドメイキング 運動と休息：体位変換 移動介助 環境調整：臥 床患者のシーツ交換 衣生活 身体の清潔：口腔 の清潔 手浴・足浴 頭皮・毛髪の清潔 全身清 拭・整容 陰部の清潔・陰部洗浄 おむつ交換 食生活の援助 排泄の援助 実技演習：ベッ ドメイキング、シーツ交換 病床整備	リアルタイム授業・実技 演習（最後）/前期	看護大学	1年
5 *注1	基礎看護学Ⅲ 生活援助技術1 基礎看護学Ⅳ 生活援助技術2	基礎看護学Ⅲ 生活援助技術1：①安全確保・感 染防止：スタンダードプリコーション②病床環 境の整備：ベッドメイキング（BM）・環境整備・ リネン交換③衣生活と清潔：全身清拭・寝衣交換 部分清潔 基礎看護学Ⅳ 生活援助技術2：①姿勢・活動と 休息・睡眠：体位変換・移動乗移②食と排泄：食 事介助・排泄援助	学校再開後の講義・演習 /6月から12月	専門学校 3年課程	1年
6 *注1	基礎看護学方法論Ⅳ 基本看護技術	看護技術の概念、感染予防技術、環境を整える技 術、体位変換・移送技術、安楽を支援する技術	オンライン授業、対面授 業・演習/前期	看護大学	1年
7 *注1	基礎看護技術Ⅱ-1, 2	ベッドメイキング、全身清拭、洗髪、足浴、口腔 ケア、おむつ交換等	オンライン授業/5月から 対面授業/6月から 学内演習/7月から	専門学校 3年課程	1年
8	基礎看護技術Ⅱ 生活援助技術	環境調整、活動・休息、清潔・衣生活、食事、排 泄	遠隔講義：オンデマンド 配信・遠隔演習、対面演 習/前期	短期大学	1年

*注1：日常生活援助技術以外の基礎看護技術について報告されている文献は、該当する内容を抽出した

学は1件（No8）、看護大学は4件（No1, 3, 4, 6）であ
った。学年では、1年生は7件（No1, 2, 4, 5, 6,
7, 8）、2年生は1件（No3）であった。

2. 遠隔授業・学内演習の取り組み（表3）

1）遠隔授業の取り組み

遠隔授業の取り組みについては、遠隔授業準備（教
員・学生）、事前課題、意見交換、学びの共有、ま
とめや課題の提出、質問への対応、動画の活用、視
聴の繰り返し、自宅での技術練習の提示、教材の配
布や工夫に分類された。

遠隔授業準備（教員）として、インターネット環
境やマイクやカメラの機器、テレビ会議システム等
の準備、遠隔授業に向けた授業の組み立て、支援
体制等が報告されていた（No1, 4, 7）。また、遠
隔授業準備（学生）として、遠隔授業の説明やテ
スト配信、授業環境の確認等が報告されていた
（No1, 4, 6, 7）。遠隔授業では、

授業前までの事前課題を提示したり（No4）、意
見交換の場を設け（No1, 4）、全体での学びの共
有を行っていた（No1, 3, 8）。授業後は課題学
習や学びを技術ノートにまとめる等、まとめや課
題を提出していた（No3, 4, 6, 8）。さらに、
掲示板等で質問を受け付け、次回以降の授業で
回答する等、質問への対応を行っていた（No1, 4,
8）。動画の活用では、市販のオンライン教材や
DVD、無料開放された動画配信サービスの他に、
教員が作成した動画が使用され、リアルタイム配
信での講義では、看護技術の実演も行われていた
（No1, 4, 6, 8）。授業資料や視聴覚教材は、視
聴の繰り返しを可能としたり、要望時のみオンデ
マンド動画として提供としたり（No4, 6, 8）。さ
らに、自宅での技術練習が提示され（No3, 6, 8）、
教材を配布したり、自宅にあるものを代用品とし
て工夫して対応していた（No3, 8）。

2）学内演習の取り組み

学内演習の取り組みについては、体調確認、手指衛

表3 遠隔授業・学内演習の取り組み

授業方法	分類	文献No
遠隔授業	遠隔授業準備 (教員)	1 4 7
	遠隔授業準備 (学生)	1 4 6 7
	事前課題	4
	意見交換	1 4
	学びの共有	1 3 8
	まとめや課題の提出	3 4 6 8
	質問への対応	1 4 8
	動画の活用	1 4 6 8
	視聴の繰り返し	4 6 8
	自宅での技術練習の提示	3 6 8
	教材の配布や工夫	3 8
学内演習	体調確認	2
	手指衛生	2 6 8
	マスクの着用	2 5 6
	フェイスシールドの着用	2 5 6 8
	更衣への配慮	2 7
	換気	2 5
	距離の確保	2 8
	少人数での演習	2 4 5 6 7 8
	使用物品の消毒	2 6
	モデル人形の使用	5 7 8
	動画の活用	2 5 7 8
	視聴の繰り返し	2 7
	自宅での技術練習の提示	5
	教材の工夫	5

生、マスクの着用、フェイスシールドの着用、更衣への配慮、換気、距離の確保、少人数での演習、使用物品の消毒、モデル人形の使用、動画の活用、視聴の繰り返し、自宅での技術練習の提示、教材の工夫に分類された。

感染予防対策として体調確認 (No. 2) や手指衛生 (No. 2, 6, 8), マスクの着用 (No. 2, 5, 6) 以外に、近距離で演習を行うことから、フェイスシールドの着用も行われていた (No. 2, 5, 6, 8)。また、演習前の白衣への更衣は人数を分けて行う、更衣はせずにジャージで登校するといった更衣への配慮が行われていた (No. 2, 7)。演習時は、窓と出入り口を開放する等の換気を行い (No. 2, 5), 距離を保つように学生同士やベッドの間隔を空ける等の対策がとられていた (No. 2, 8)。少人数での演習を行うために、クラスの人数を分け、時間や教室を分ける等の対策がとられた (No. 2, 4, 5, 6, 7, 8)。演習での使用物品は消毒が行われていた (No. 2, 6)。患者役にはモデル人形を使用する場合もあった (No. 5, 7, 8)。そのため、演習では患者の立場に立つ

て援助を行うことを強調して行われていた。その他に、テキスト付帯の動画や教員が作成した動画を活用し、デモンストレーションの代わりとする等、自己学習ができるようにしていた (No. 2, 5, 7, 8)。動画は繰り返し視聴できるようにしていた (No. 2, 7)。看護技術の自己練習は、自宅での技術練習を提示し、自宅にあるものを教材として工夫していた (No. 5)。

IV. 考 察

1. コロナ禍での基礎看護技術教育の取り組み

対象文献の概要では、2020年度の前期に相当する授業時期が5件と最も多かった。また、授業方法は遠隔授業 (オンライン教材含む) と学内演習が6件と最も多かった。2020年度前期は、新型コロナウイルスの感染拡大により、休校措置がとられた。文部科学省より学生の学修機会を確保するとともに、感染リスクを低減する観点から、いわゆる面接授業に代えて、遠隔授業の実施が示された¹⁾。その後、登校が再開し、面接

授業が始まり、感染予防対策をとりながらの学内演習が行われていった。文部科学省から授業計画を変更することは差し支えないことが示された¹⁾。各看護師養成機関においても、授業計画の見直しを図りながら、講義を先行し、演習を後半に行う等で対応し、感染予防対策を講じた学内演習が行われていた。その他、感染状況により、2020年度後期にも遠隔授業が行われた文献もみられた。

遠隔授業の取り組みでは、テレビ会議システム等を使用した遠隔授業やオンデマンド型の遠隔授業が行われていた。対象文献には遠隔授業での授業方法のポイントや工夫が報告されていた。学修効果を高めるために、意見交換、学びの共有、質問への対応等が行われ、双方向性を持った遠隔授業が行われていた。村上は、ICTの効果的な活用には、機器の取り扱いの習熟と授業設計の工夫が必要であると述べている⁴⁾。また、事前課題やまとめや課題の提出が行われていた。村越は、基礎看護技術演習の教授方略の工夫として、事前事後課題を設定した授業設計等により、自ら学ぶ力の育成に取り組んでいることが述べられている⁵⁾。遠隔授業においても授業設計を工夫した授業が行われていた。

学内演習の取り組みでは、感染予防対策として体調確認や手指衛生、マスク・フェイスシールドの着用、使用物品の消毒等が行われていた。換気や距離を保つ配慮、人数を少人数に分け、患者役にモデル人形の使用等が行われていた。厚生労働省から演習の際は、「3つの密」（密閉空間、密集場所、密接場面）を避けた環境を整備し、感染予防策として、個人の感染予防の徹底や、人数、演習時間等に留意し実施することが示された²⁾。基礎看護技術教育では、技術習得のために演習が重要となる。感染予防対策を取りながら学内演習を行い、学修効果を高めるための様々な工夫がされていた。

特に、学修効果を高めるための工夫として、遠隔授業、学内演習ともに、市販の動画や教員が作成した動画が多く活用されていた。対象文献では、動画の作成時のポイントも報告されていた。教員が作成した動画には技術の要点がまとめられ、具体的に理解できるような工夫がされていた。川島らは、看護基礎教育における看護技術では、動画を活用した講義や演習が多くみられ、その活用にも様々な工夫があることを報告している⁶⁾。動画は繰り返し視聴でき、手技の確認等、

今後も効果的な活用が可能である。また、自宅での技術練習を提示し、学修に必要な教材の配布や自宅にあるもので代用する等の工夫が報告されていた。自宅での技術練習では、技術の根拠と共に重要なポイントが強調され、患者の立場で考えるように具体的な提示がされていた。動画の活用や自宅での技術練習の提示等では、授業内容の精選が行われていた。屋宜らは、看護系大学基礎看護学領域の教員のインタビュー調査から、新型コロナウイルス感染緊急事態宣言下で得た遠隔授業の体験から、『学生目線』の講義、演習運営の授業展開に向けた手ごたえ、今後に向けた課題を見出していたと述べている⁷⁾。通常では、看護技術は学生同士で対象者役と看護者役を体験しながら学修することが多いが、今回、感染予防対策を講じながら、効果的な学びに繋がるように様々な工夫を取り入れて行った講義や演習であった。このような経験から得られた教育方法は今後も活用されていくと考える。

2. 今後の課題

コロナ禍において看護師養成機関では、休校や代替実習、遠隔授業等が行われ、教育への影響が懸念された。このような影響を払拭するために、感染状況を踏まえた演習日の新たな設定や卒業直前・卒後のフォローアップ研修、新人看護職員研修での取り組み等が報告されている⁸⁻¹¹⁾。文部科学省の看護学教育モデル・コア・カリキュラムでは、看護実践能力の修得を目指した学修目標が示され¹²⁾、厚生労働省からの看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインでは、看護師教育の技術項目と卒業時の到達度として、演習と実習で到達度を分け、13項目71種類が提示されている¹³⁾。学生は看護技術を講義・演習で学んだ後、臨地実習での経験を積み重ねて学んでいく。学生が学修を積み重ね、効果的に学んでいくためには、教育機関内での継続した情報共有が必要である。また、医療機関との情報共有を密にしながら学生の学修を支援していくことが必要であると考えられる。

コロナ禍で学生の学びを止めないために行われた遠隔授業や感染予防対策を講じながら行った学内演習には、様々な工夫と共に、看護技術教育を学ぶ上で重要な要素が込められていた。2020年は保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正が示された¹⁴⁾。基礎看護学では、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法等を学ぶ内容とし、

シミュレーション等を活用した演習を強化する内容とする」と記されている¹³⁾。看護師養成機関では様々な科目でシミュレーション教育が取り入れ¹⁵⁾、客観的臨床能力試験（OSCE）を導入している教育機関からの実践が報告されている¹⁶⁾。今後、基礎看護教育の向上につながるように、他の看護師養成機関や医療機関等との情報共有を図りながら、効果的な教育方法を開発し、実践力を強化していくことが必要であると考え。

最後に、本研究の限界として、対象文献が十分に網羅できているとは言えない。今回、医中誌Webで「COVID-19」「看護技術」のキーワードで検索した。しかし、それ以外の方法で、加えられた対象文献もあった。また、対象文献から日常生活援助技術に焦点を当て遠隔授業と学内演習の取り組みを抽出し分類した。しかし、対象文献の日常生活援助技術の技術内容やその取り組みについての報告形式は様々であった。そのため、技術教育の取り組みについて明確に内容を抽出し、日常生活援助技術の特徴を踏まえた検討ができていないとは言えない。

V. 結 論

コロナ禍における基礎看護技術教育の取り組みについて、日常生活援助技術に焦点を当てて文献検討を行った。その結果、遠隔授業の取り組み、感染予防対策を講じた学内演習での取り組みが明らかとなった。今後、教育機関内や他の看護師養成機関、医療機関等との情報共有を図りながら、効果的な看護技術教育を検討していく必要性が示唆された。

利 益 相 反

本研究に関する利益相反はない。

文 献

- 1) 文部科学省 (2020年3月24日) : 令和2年度における大学等の授業の開始等について (通知). https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf (参照2023年11月12日)
- 2) 厚生労働省 (2020年6月22日) : 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について. <https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf> (参照2023年11月12日)
- 3) 大森美保 : コロナ禍における看護学生の臨地実習の代替実習に関する文献検討, 帝京科学大学紀要, 18, 157-164, 2022.
- 4) 村上大介 : 看護基礎教育におけるICT活用と効果に関する文献検討, 日本伝統医療看護連携学会誌, 1 (1), 72-81, 2020.
- 5) 村越望 : 基礎看護技術演習の教授方略の工夫に関する文献検討, 秀明大学看護学部紀要 4 (1), 21-29, 2022.
- 6) 川島良子, 西田絵美, 三尾亜喜代, 他 : 看護基礎教育における看護技術教育に関する文献検討, 北関東医学, 72 (1), 101-112, 2022.
- 7) 屋宜譜美子, 蔵谷範子 : 看護系大学基礎看護学領域で遠隔授業に取り組んだ教員の体験—新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下での教育方法の転換, 湘南鎌倉医療ジャーナル, 1 (1), 29-47, 2022.
- 8) 三谷理恵 : コロナ禍におけるオンデマンド型看護技術演習の実践, 兵庫医療大学紀要, 9 (2), 73-78, 2021.
- 9) 中山由美, 重年清香, 渡邊敦子 : COVID-19禍における看護学生への卒業直前看護技術フォローアップ研修, 梅花女子大学看護保健学部紀要, 12, 26-32, 2022.
- 10) 水戸優子, 加藤木真史, 間瀬由記, 他 : 新型コロナウイルスの影響に係る大学基盤型新人看護職員卒後フォローアップ研修プログラムの構築, 神奈川県立保健福祉大学誌, 19 (1), 151-162, 2022.
- 11) 末永由理 : 新型コロナウイルス感染症流行下の新人看護職員研修の実態と今後のあり方, 看護 日本看護協会機関誌, 74 (11), 62-65, 2022.
- 12) 文部科学省 (2017年10月) : 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf (参照2023年11月12日)
- 13) 厚生労働省 (2023年10月4日) : 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン. https://www.mhlw.go.jp/kango_kyouiku/_file/1.pdf (参照2023年12月27日)
- 14) 文部科学省・厚生労働省 (2020年10月30日) : 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布について (通知). https://www.mext.go.jp/content/20201105-mxt_igaku-000006024_1.pdf (参照2023年11月24日)
- 15) 今井秀人, 中山由美, 舟木友美, 他 : 看護学生を対象としたシミュレータを用いたシミュレーション教育の学習効果, 課題に関する国内文献レビュー, 摂南大学看護学研究, 8 (1), 46-54, 2020.
- 16) 高島利, 荒尾博美 : 看護系大学生を対象とした客観的臨床能力試験 (OSCE) の現状に関する文献レビュー, 熊本保健科学大学研究誌, 18, 43-56, 2021.